

「事業名：外国語教育、環境教育を活用した『持続可能なまちづくり』創造事業」 2022年度補助事業の実績・成果

事業のポイント

本学と田村市との間で継続的な連携関係を構築し、これまで大学が培ってきた「外国語教育」「環境教育」に関する資源やノウハウを活かした事業を展開し、情報発信と「環境に配慮した持続可能なまちづくり」の仕組みを構築し、それを相双地域の他の浜通り市町村に展開していく。

今年度の活動実績

- ・Fukushima Futureサミット(F2サミット)の事前研修会に2回にわたり協力し、本学学生がファシリテーターを務め、生徒とワークショップを行って、発表資料を作成するのを補助し、発表指導にあたった
- ・「第4期田村市地球温暖化対策実行計画【区域施策編・事務事業編】」のパブリックコメントに意見を寄せて、「地球温暖化対策実行計画」策定に協力した。
- ・田村市観光情報サイトの多言語化プロジェクトは、ドイツ語、タイ語の翻訳完成原稿は田村市観光交流課に提出済み、英語はネイティブチェック後の確認を経て提出予定。今年度内に韓国語、中国語、フランス語、スペイン語も提出を目指して最終チェックに入っている。
- ・地域資源・地域課題の発見のための活動としては、イラストマップの作成と地元学(田村学)と環境教育実施のための事前調査として現地調査、田村市伝統芸能の実態調査、田村市の農業関係の実態調査として課題と可能性を探るためヒアリング調査、地域活性化のためのイベント視察など、5回、延べ10日間の現地調査を行った。



F2サミット事前研究会2で市内中学生のファシリテーターを務める学生スタッフ



大倉神社の大々神楽の笠揃いを視察し、直会で地域住民の方々との交流

今年度の成果

- ・2回のF2サミット事前研修会を通して、また、本学学生は中学生と交流を深めることができ、中学生を教えることで得るものがあること、参加中学生に田村市の地域資源・地域課題について再発見してもらうことができ、環境やSDGsに対する関心を高めることができた。実際に現地での実践活動を通じた環境教育の必要性を認識することができた。
- ・田村市観光情報サイトの翻訳に取り組むことで、学生は田村市の観光資源や伝統、住所や地理的立地についても調べる必要性があることを認識でき、田村市の情報を主体的に調べるという姿勢を身に付けることができた。
- ・現地視察や地域住民との意見交換を通じて、地域資源・地域課題についての理解が徐々に深まってきている。住民の方が考える田村市の課題も徐々に見えてきた。
- ・2021年8月に策定された「第4期田村市地球温暖化対策実行計画」には、私たちが提出したパブリックコメントをいくつも反映していただいた。学生は自治体の温暖化対策に関して、自分たちの意見が取り入れられたことで、大学での学びを社会に活かすことができると認識でき、田村市の温暖化対策を自分事として捉えることができるようになった。



訪問販売による住民とのコミュニケーションを大切にするがもう農園ご夫妻に取材